

テーマ研究・調査活動成果報告書

提出日: 2009年3月31日

テーマ名	Business Process Management Suite (BPMS)研究	
届出組織等名称	BPMS研究会	
成果物公開URL	協会HP・SNSに掲載予定	
当活動代表者 及び担当者連絡先	(代表者氏名)渡辺和宣 電話番号:090-7216-6194 e-mail: kwatanabe@merpi.com	(担当者氏名)小林寛三 電話番号:090-9012-4486 e-mail:k.kobayashi@itc.or.jp
研究・調査 成果概要	<p>0. BPMS研究会: BPMおよびBPMSなど上流プロセスの最新動向に関心をもつITコーディネータおよびこの分野の専門家が、関会長の呼びかけによって、原則として毎月1回2~3時間、協会分室で研究会を実施することになった。講師は、メンバーそれぞれが関連する得意分野を、毎回交互に発表する形式である。</p> <p>=====</p> <p>1. PGLとの関連: ITコーディネータのプロセス・ガイドライン(PGL)にとって、経営戦略フェーズからIT戦略策定への展開において、いかにステークホルダの要求を正確に、かつもれなく反映させるかは、IT経営を成功させる上流工程において極めて重要な課題である。この点に着目した技術として「要求工学」(Requirements Engineering)という工学分野があり、またこの部分を基礎にBABOK (Business Analysis Body Of Knowledge)の標準化が整備されつつあり、2008年にはBABOK日本支部が設立され、日本語化の作業が進行しつつある。</p> <p>2. SOA的システム開発: 一方、システム構築の立場からは、ITシステム構築手法としてSOA(Service Oriented Architecture)が、システム構築期間の短縮化や疎結合によるシステム間連携の容易さ等を意図して設計されており、インターフェースの標準化、そのためのミドルウェア(Enterprise Service Busなど)の開発などが進行している。今日、SaaSやPaaSが注目されてきている背景には、このSOA技術によるシステム構築の隆盛がある。</p> <p>3. SCORレベル: 経営からIT構築への一連の流れは、BPM (Business Process Management)として、この上流プロセスの可視化の課題に収斂される。この収斂の方法は、SCM(Supply Chain Management)でSCOR(Supply Chain Operations Reference)として業務プロセスレベル1~3として1990年代に開発された手法がある。即ち、レベル1はトップレベルの戦略課題、レベル2は、企業間、事業間のプロセス課題、レベル3は、企業内、事業内のプロセス課題というようにレベルが進展する毎にプロセスの粒度が細分される。</p> <p>4. ESCORT: レベル4以降は、SCORでもオプションとされている。渡辺和宣氏は、3年かけて、このレベル4の業務プロセス機能課題、レベル5の業務機能コンポーネント課題を独自に扱</p> <p>5. レベル4以降となると、BPMSモデラツール (ARIS, SAVVIONなど)を活用できる。変</p>	
成果物	別紙	

\* 青字は事務局で記入します。

事務局受付日	2009/3/31
案件番号	S08004